



情報通信審議会
電気通信事業部会・接続委員会合同ヒアリング
次世代ネットワークに係る接続ルールの在り方について

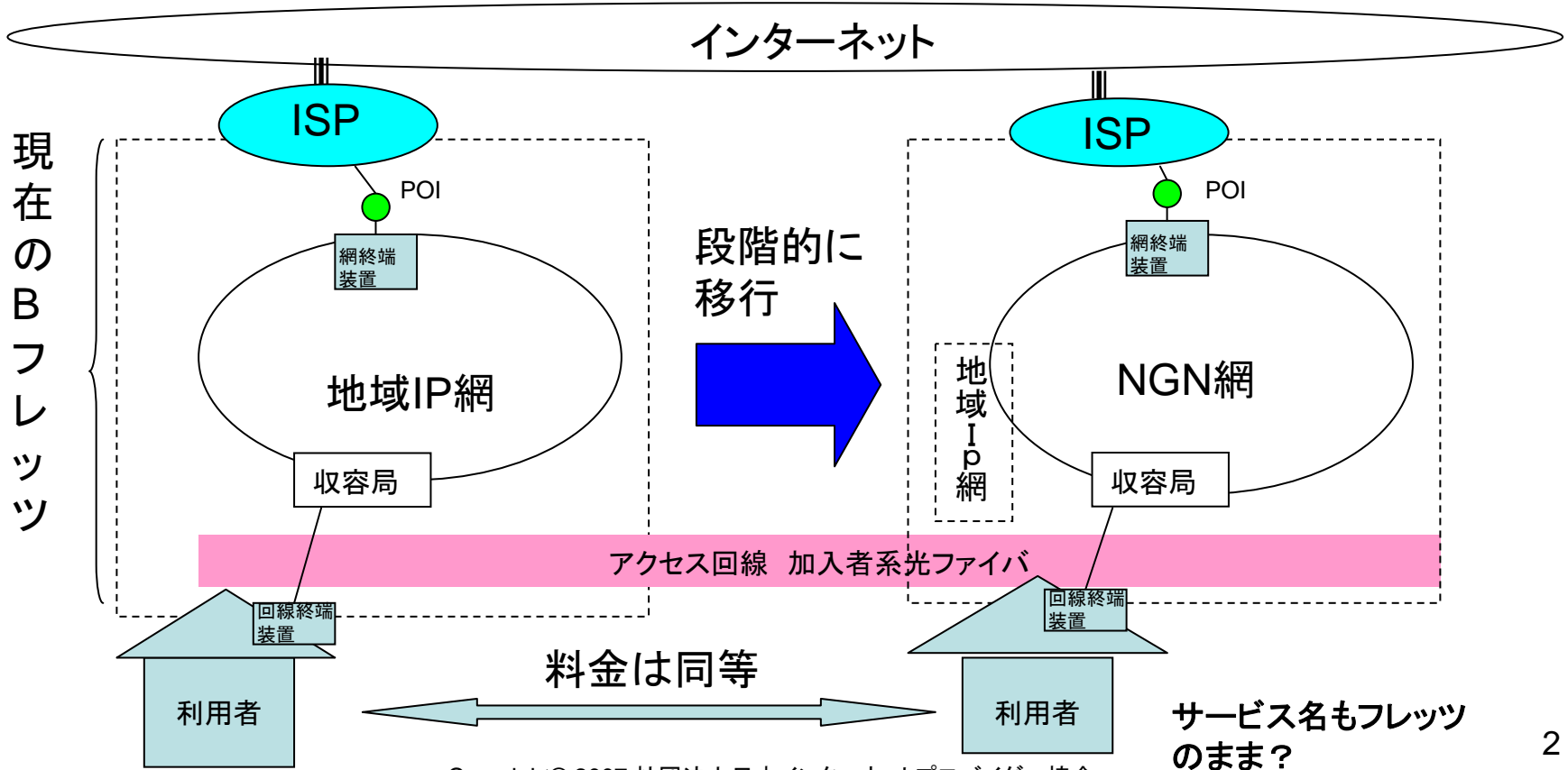
2007年11月16日
社団法人日本インターネットプロバイダー協会

第一種指定電気通信設備の指定範囲 NTT東西の次世代ネットワークの扱い

JAIPAの主張

- 地域IP網はその上でサービスを提供するISPにとってはボトルネックとなる。
- 次世代ネットワークはISPにとって、地域IP網と同じ機能と位置づけられる。
- 地域IP網が指定電気通信設備なら、次世代ネットワークも同様と考えられる。

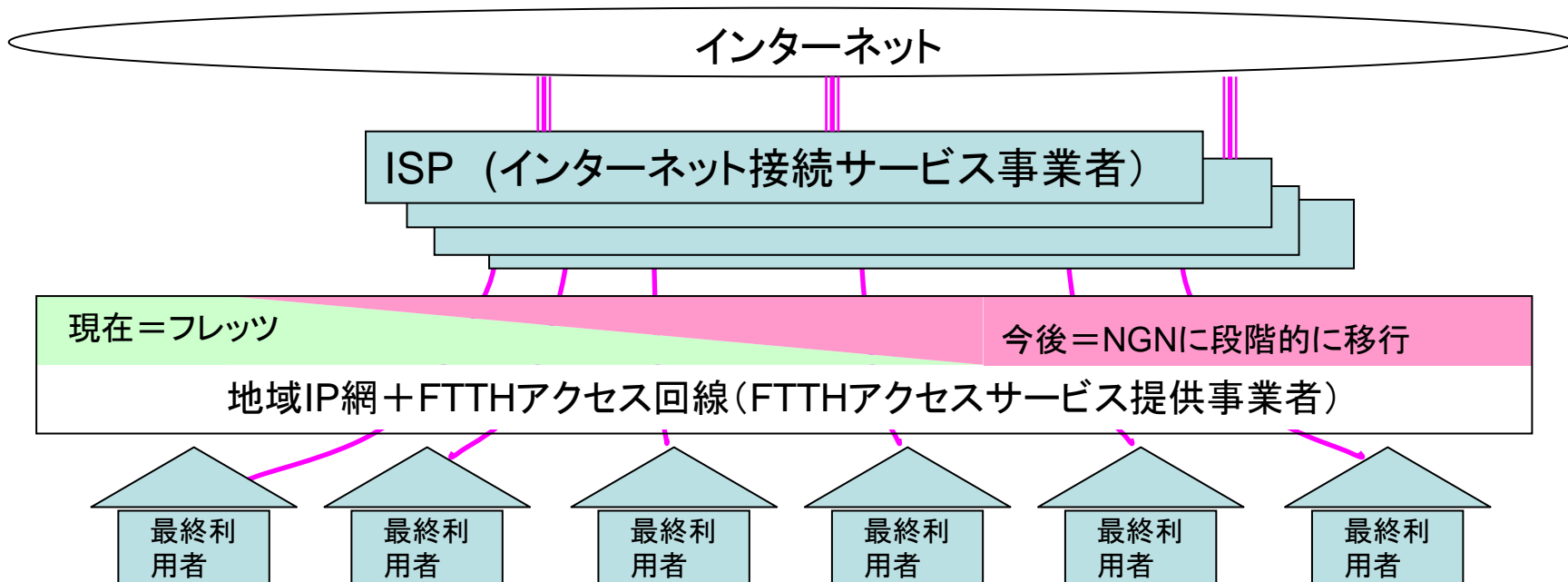
当面のNGNとISPの関係



指定電気通信設備に指定されている地域IP網の 次世代ネットワークの稼働後の扱い

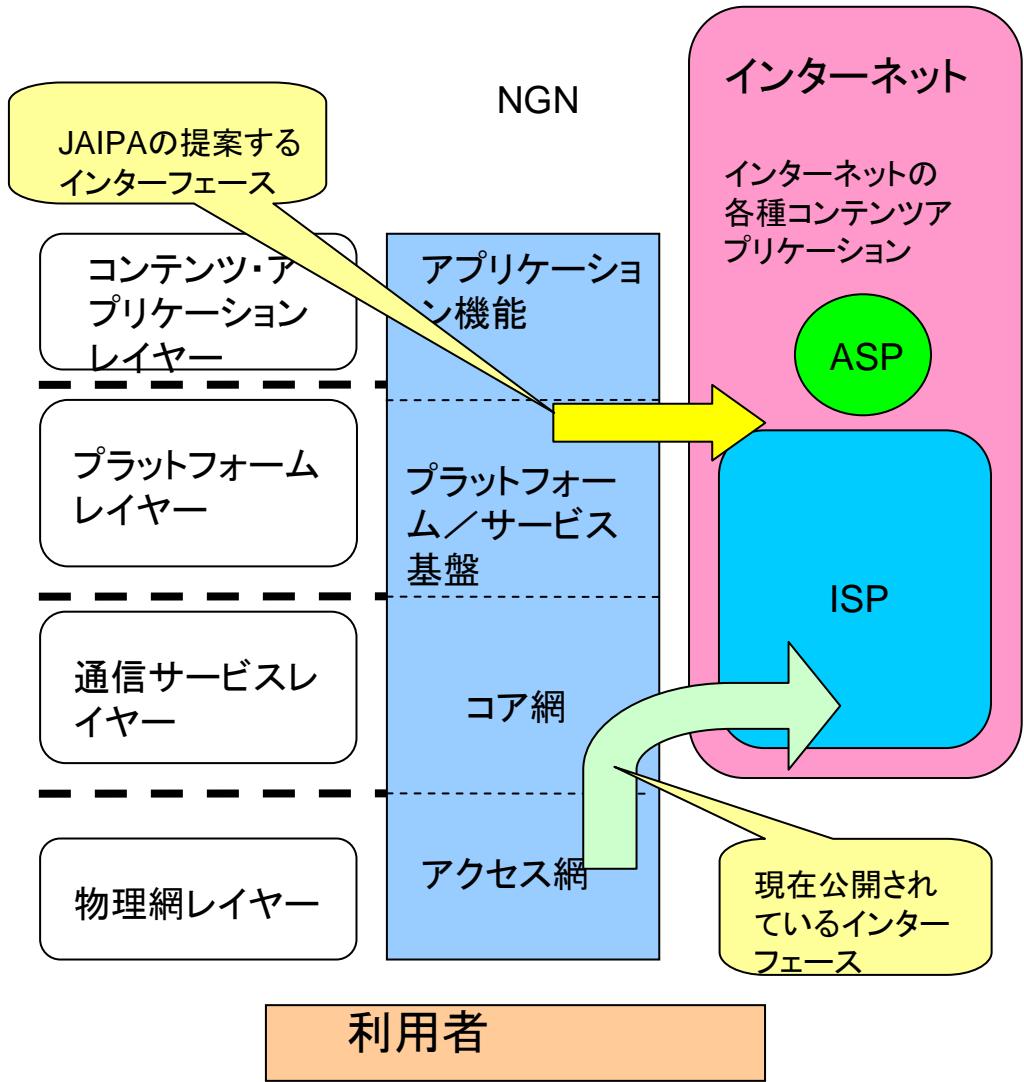
JAIPAの主張

- 次世代ネットワークの稼働後も当面、地域IP網は並存すると思われる。
- 次世代ネットワーク稼働後も、アクセス網である加入者系光ファイバと一体として提供される地域IP網も、ISPにとっては実質上代替性のないボトルネック設備である。
- 従って地域IP網は次世代ネットワークの稼働後も引き続き指定されることが必要。



次世代ネットワークに係る設備・機能の細分化(アンバンドル)

- 次世代ネットワークのアンバンドルはアクセス網、コア網、プラットフォーム網といったレイヤー毎に機能単位でアンバンドルされるのが望ましい。
- 次世代ネットワークのプラットフォーム機能(認証・課金、QoS制御等)については特にアンバンドルされるべき。
- 次世代ネットワークはまだ発展途上であり、今後様々な機能が追加されるため、アンバンドルについても、随時あるいは定期的に見直しを行なうことが必要。

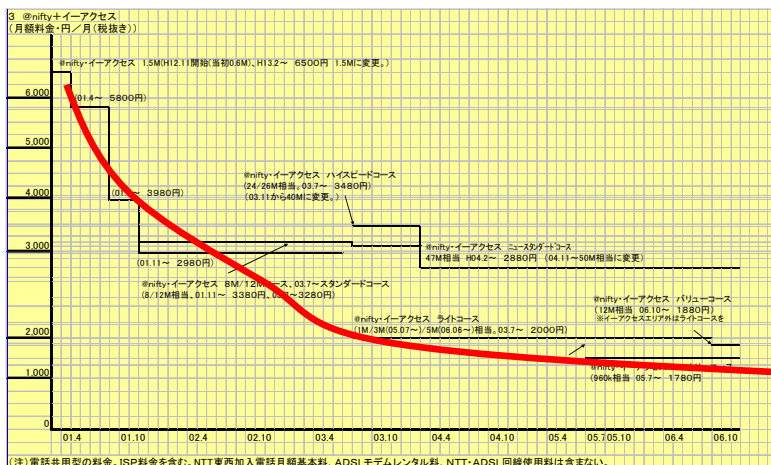


分岐端末回線単位の加入ダークファイバ接続料の設定

JAIPAの主張

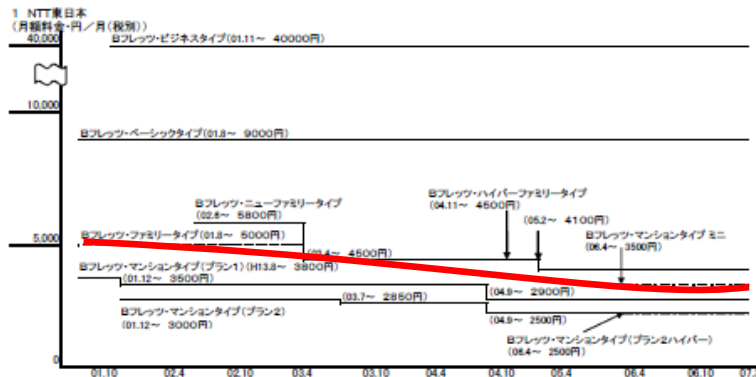
- 分岐回線単位のダークファイバ接続料の設定は、市場競争の活性化を通じて光ファイバの一層の普及拡大をもたらす。
- フレッツの卸の実現による、柔軟な価格設定を通じての市場の活性化も必要。

ADSLの料金は1/3 速度は8倍に



ネットワークの中立性に関する懇談会第3回JAIPA提出資料より(総務省2006年度競争評価より引用)

FTTHの料金は2割下がったのみ (東日本ファミリータイプの比較)



総務省2006年度競争評価第3章インターネット接続料域の市場分析より

JAIPAの主張

- IPv4のアドレスの国際的在庫は2010年代初頭には枯渇すると見込まれている中で、IPv4からIPv6への移行は速やかに行われる必要がある。
- 次世代ネットワークは当然インターネットにおけるIPv4アドレスの枯渇とIPv6アドレスへの移行を考慮し、次世代ネットワークと接続するISPにもインターネット接続にIPv6を利用したサービスをエンドユーザーに提供できる仕組みを提供することが求められる。

